スマート農業・IPM 技術の導入支援による 儲かる施設園芸（イチゴ・トマト）経営体の育成

鹿行農林事務所行方地域農業改良普及センター

イチゴやトマトは、行方地域における基幹品目ですが、高齢化による担い手の減少、労働力不足、生産量の低下等の問題を抱えています。そこで、経営改善に意欲的なイチゴやトマトを基幹とする経営体に対し、スマート農業や IPM（総合的病害虫・雑草管理）等の技術導入を重点的に働きかけ、所得向上を図る活動に取り組みました。

所得1,000万円以上の経営体の育成

経営改善に積極的なイチゴ経営体に対して、定期的な生育診断と環境測定装置を活用した栽培管理指導により（**写真１**）、収量及び所得向上を支援しました。その結果、厳寒期のイチゴの草勢が改善され、いばらキッスの収量が向上し（R3年3.8t/10a→R4年4.2t/10a）、所得1,000万円を達成することができました（**図１**）。

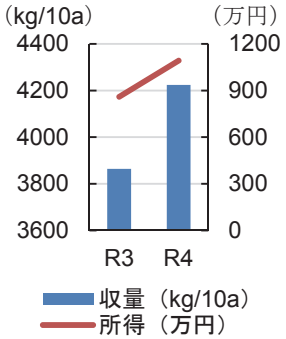

図１
収量及び所得向上効果

写真１
環境データと生育調査

天敵活用でトマト経営体の収量向上

写真２
タバコカスミカメ成虫

写真３　放飼の様子

行方管内において、化学合成農薬を中心とした防除体系では、コナジラミ類によるすす病や、ウイルス病による減収が問題となっています。そこで、天敵昆虫や耐病性品種の導入を支援した結果、コナジラミ類の発生が抑制され、収量向上（R3年13t/10a→R4年15t/10a）につなげることができました（**写真２、３**）。難防除病害虫に対する体系的な対策を普及することで、産地全体の収量・所得向上を目指していきます。

イチゴ栽培におけるIPMの普及拡大

イチゴ栽培において、ハダニ類の化学合成農薬に対する感受性の低下が問題となっています。そこで、定植前の苗に高濃度炭酸ガスを処理して防除効果を確認するとともに（**写真４**）、感受性が低下したハダニ類にも有効な天敵を中心とするIPM技術の導入を推進しました（天敵利用面積R3年5.8ha→R4年6.5ha）。今後は技術の周知を行うとともに、高密度炭酸ガス処理設備の共同利用について検討を行うなどして、儲かるイチゴ経営体の育成を図っていきます。

写真４　イチゴ苗の高濃度炭酸ガス処理